

【報告事項】

2016年（平成28年）事業報告

2016年（平成28年）事業報告書

（平成28年1月1日～平成28年12月31日）

SL 災害ボランティアネットワーク（以下、本法人という）は、大規模地震等の大災害に備えて「わが身わが命は自分で守る」ことを基本精神に、地域・職場・大学等に根ざした自主的な防災活動、被災地支援活動を行い、災害の被害を軽減することを目的に活動しており、2016年（平成28年）は次の事業を行った。

1. 地域・職場・学校等での自主的な防災活動事業

自主活動～地域ネット活動

千葉県では、地域ネット代表者からなる地区運営委員会を隔月で開催し、各地域の情報交換と県ネットの年間活動計画等を策定、それを実行した。また各地域ネットでは地域の事情に応じて定例会（月1回・隔月）を開催した。定例会では、会員の防災知識と技能維持向上を図るため、勉強会・技能訓練を行った。

また SL 会員は所属する地域ネットにて学校や社協、他団体とともに防災・減災の啓発普及活動を次の通り実施した。

- ・ NPO 法人神奈川災害ボランティアネットワーク（KSVN）と共催でかながわ・よこはま防災ギャザリング事業
- ・ 学校での防災マップ作りや、地域のイベント等で防災・減災の展示啓発活動

防災訓練の指導と訓練参加

九都県市合同防災訓練、並びに各自治体の総合防災訓練へ参加し、日頃の訓練の成果を発揮した。

受託事業の実施

地域、社協、行政から委託を受け、企画・運営した主な事業は次の通り。

大和市社協災害 VC 運営¹ スタッフ養成講座・船橋市地域防災リーダー研修を実施。また神奈川県教育委員会受託事業として神奈川県立高校 26 校で DIG²、また教員を対象にした DIG を実施。

1. 災害 VC は災害ボランティアセンターの略。

2. Disaster（災害）Imagination（想像力）Game（ゲーム）の頭文字をとった災害図上訓練のこと。

2. 災害時における被災地支援事業

本法人が被災地の行政または社協からの情報を収集・把握し、被災地への支援活動を検討した上で、SL 会員に呼びかけた被災地支援事業は次の通り。

【平成28年熊本地震への支援活動】

- ・ SL 個人による被災地支援活動（益城町・熊本市・宇土市など）
- ・ 「かながわボランティアジェット」実行委員会に参加し、益城町での避難所支援・特別養護老人ホームでの福祉支援を行った。
- ・ 熊本応援缶バッチ義援金活動を実施し、766,679 円を熊本県に送金した。

3. 会員の知識と技能向上のための教育訓練事業

専門部会の設置

3つの専門部会を設置し、各部会にて情報交換・勉強会・見学会等を行った。

- ・ 福祉部会（毎月第2金曜日定例会）…災害要支援者や災害時のトイレをテーマに議論した
- ・ 情報部会（毎月第2水曜日定例会）…見学会をメインに情報交換を行った

- 応急部会（毎月第3木曜日定例会）…地域のイベントを実施するための運営会議を行ったリーダー及びインストラクターを育成する事業

神奈川県教育委員会からの受託事業である DIG 事業への講師派遣では、インストラクター・ファシリテーターとなる SL を事前に集め、統一した指導内容となるよう内部研修を行った。また、社団として統一した教材の作成に着手した。

見学会、講演会、交流会、野外訓練等の実施

地域を超えた会員の相互交流・親睦を図るため、県域での交流会・野営訓練等を行った。

- 6月26日には第1回SL全体ミーティングを新宿TKPカンファレンスセンターにて実施し、SL活動に対する考えや方針などを共有する場を設け、63名の参加があった。
- 千葉県では春季研修（5月）として市川市民キャンプ場での野外訓練を行った。また秋季研修（11月）では、「熊本地震で見えてきた課題」と題し、り災証明の概要及び指定管理者による避難所の運営について研修を行った。
- 神奈川県では10月柳島キャンプ場での野外訓練を実施した他、11月には湘南ネットが公開講演会を企画し、津波研究の第一人者である今村文彦東北大学教授を招いて講演会を開催した。

4. 災害救援ボランティアリーダーを育成する事業等への協力

災害救援ボランティア推進委員会が主催する「災害救援ボランティア講座」等への講座運営を支援し、社団活動の説明を行い、新規会員の確保を行った。【正会員数 = 772人/12月末現在】

5. その他、目的達成に必要な事業

理事会の開催および運営等

理事会を10回開催し、熊本地震への対応の協議をはじめ、本法人の基盤となる各種規則・規約等の作成などを行った。

運営委員会の開催および運営等

東京・神奈川・千葉・埼玉と専門部会から構成する運営委員会では、毎月1回定例会を開催し、横断的な情報交換、SL活動の企画・運営を話し合った。

各地域ネットワークの組織整備と充実

埼玉県では、5月に県ネットワークが、神奈川県では6月に県央ネットが発足した。

防災訓練に付随する備品の頒布事業

非常用炊出袋の頒布の斡旋を行った。

広報啓発事業

災害救援ボランティア推進委員会が年6回発行している会員向け広報紙「SL NewsLetter」の編集・発送に協力した。またホームページ並びにフェイスブックを運用し、広報周知を図った。

関係団体との連携事業

千葉県では、千葉県SLネットが千葉県災害ボランティアセンター連絡会（事務局：千葉県社会福祉協議会、日赤千葉県支部）に加盟し、九都県市合同防災訓練や災害VC運営者研修等に参加、協力した。千葉県災害VC運営マニュアル（仮）検討作業部会にも出席し、マニュアル策定に協力した。また、シェイクアウト提唱会議と協力して、自治体でのシェイクアウト訓練の普及活動を行った。

以上

監査報告書



公益社団法人

SL 災害ボランティアネットワーク

代表理事 濱田 政宏 様

作成日：平成 29 年 3 月 1 日

公益社団法人 SL 災害ボランティアネットワーク

監事 水鳥 将隆 
監事 菅 侃爾 

私たち監事は、平成 28 年 1 月 1 日から平成 28 年 12 月 31 日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び職員等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事及び職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又は、これに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその付属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2 監査意見

(1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類及びその付属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその付属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以上